

2時間目の講義（倫理）：『漁港内での貝取り』①

『とかち遊漁塾』塾長の『釣沢 遊吉（つりざわ ゆうきち）』である！

これより2時間目の倫理の講義を始める！ 本日の講義は、『漁港内での貝取り』とする！

最近、とある漁港の港内で「釣り用の防水ウエーダー（胴長、胴継ぎを含む）」を身に着け、腰の近くまで海の中に入って貝取りをする遊漁者を見かけることがある。



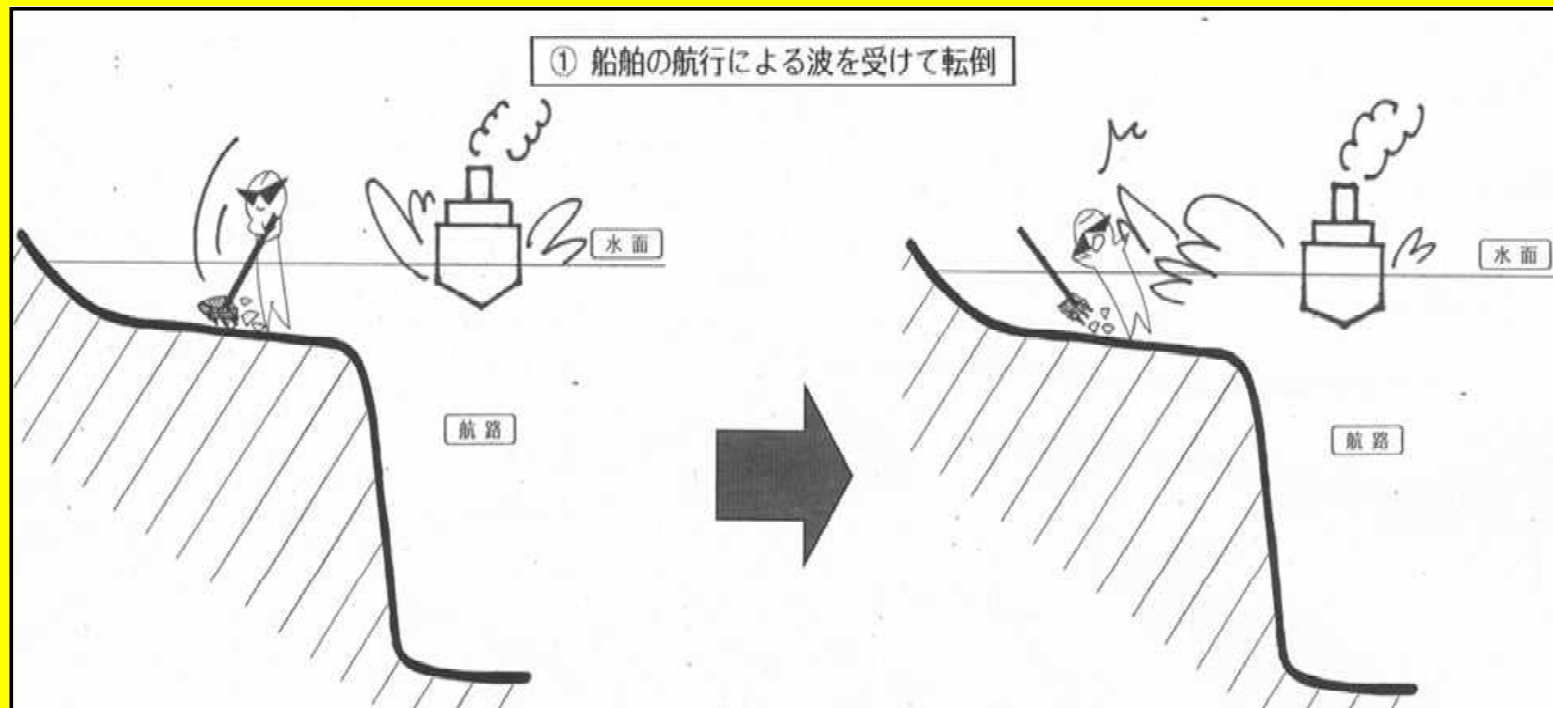
【漁港内での貝取り】

当然「じょれん」などの違法な漁具を使って貝類を取ることは言語道断であるが、違反の有無以前に、船舶が出入港する漁港内の海の中に

2時間目の講義（倫理）：『漁港内での貝取り』②

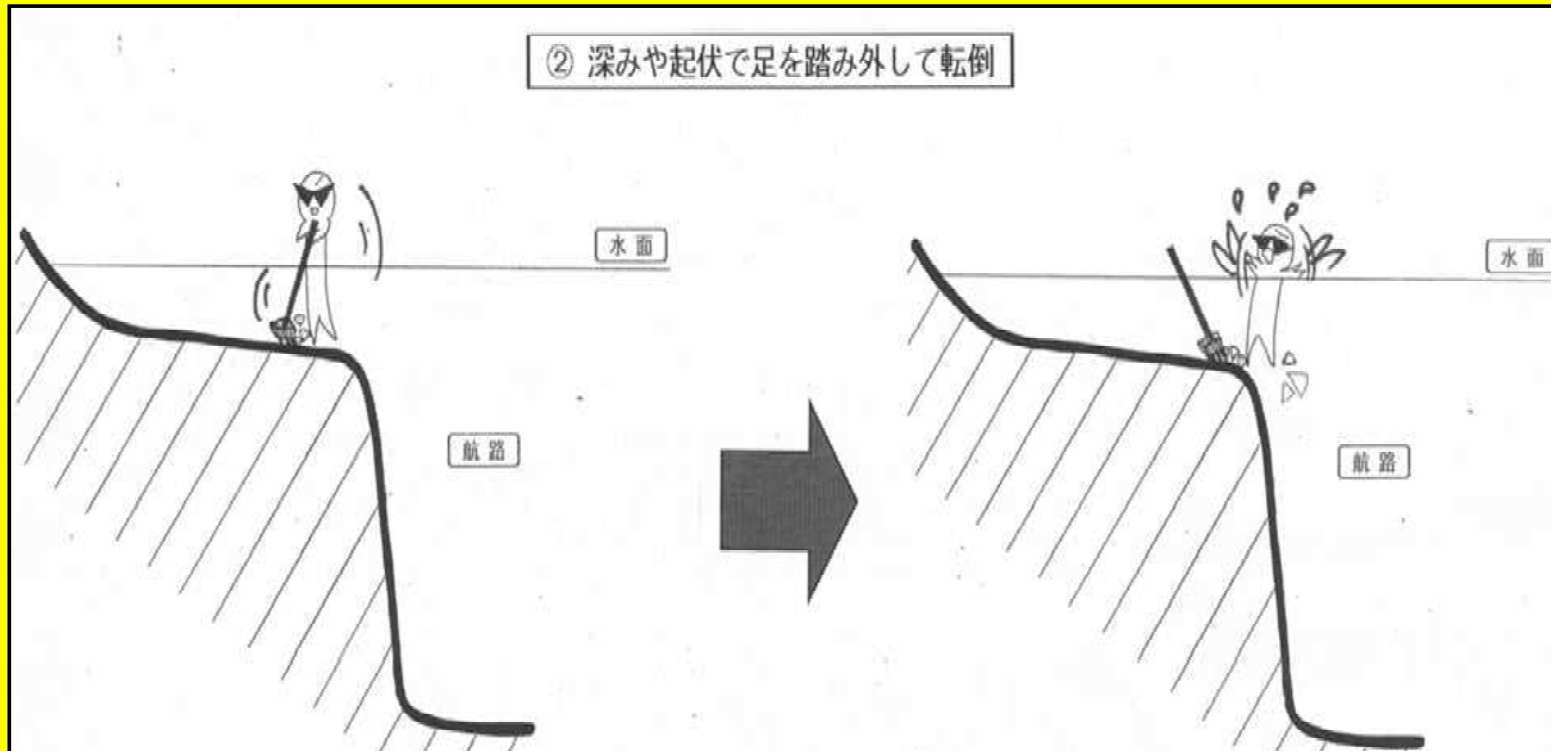
入る自体が大変危険な行為であり、例えるならば『自動車の往来が激しい道路の真ん中で落とし物を捜している』行為に等しい無謀なことと言える！

漁港内では、船舶が出入港する際に、必ず船舶の航行に合わせて大小の連続する波が発生するが、もし遊漁者が不意にこの波を受けた場合は、海の中で転倒することが考えられ、我が輩の経験では転倒し「ウエーダー」の中に海水が入ると、一人では立ち上がることは非常に困難であり、溺れる可能性が高いと思われる。



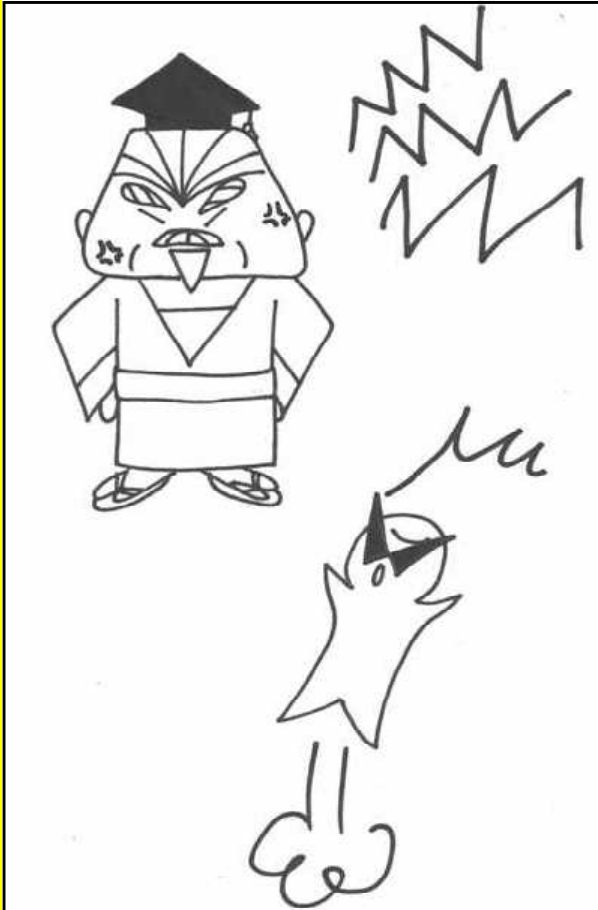
2時間目の講義（倫理）：『漁港内での貝取り』③

また、漁港内の海底は、船舶の航行用に航路部分が溝のように、急激に深く掘り下げられており（水深5メートル以上の深さの場所もある）、もし遊漁者が深みや起伏で足を踏み外して転倒した場合は、同じく溺れることが容易に想定できる。



このように、漁港内での貝取りは大変危険であり、少し考えれば判ることなのだが、残念なことにこのような行為を行う遊漁者の多くは、物事の分別も十分あろうと思われる中高年の遊漁者であり、まさしく『常識（モラル）が欠如』していると言える！

2時間目の講義（倫理）：『漁港内での貝取り』④



今時期の漁港内では、十勝管内の水産業の水揚げの大部分を占める、秋サケ定置網漁業が最盛期で、関係者による各種作業が早朝から夕方遅くまで続いているが、地元の漁業者からは「貝取り遊漁者の水難事故の発生」を懸念する声が日増しに高まっている。

もし、不幸なことに事故が発生した場合は、この年間で最も忙しい時期に各種作業を中止し、命懸けで救助や捜索などを行わなければならない『海の男達』のことを、遊漁者は冷静に考えこのような行為は慎むべきである！

我が輩も「近頃の若者は…」などと、色々な場面で若者の無謀さに苦言を呈することもままあるが、一定の年齢に達した者がこのようなことでは、今の若い遊漁者にも顔向けもできん！

このような、恥ずかしい遊漁者に対しては、我が輩が気合いを入れて目を覚まさせてやる！！

『 喝ーあーっ!! 』

以上で、講義『漁港内での貝取り』を終了とする！